

# 令和5年度 NPO体験セミナー事前学習会 実施報告書

令和5年7月18日  
菊川市市民協働センター



【名称】NPO 体験セミナー事前学習会

【目的】

次世代を担う中高生たちが NPO の活動を体験することで、社会貢献意識を高め、若者参加の地域づくりのきっかけにする。

【日 時】令和 5 年 7 月 15 日（土）13:00～16:00

【会 場】菊川市役所庁舎東館プラザきくろ 3F 会議室

【参加者】中学生 2 人、高校生 11 人

【講 師】

NPO 法人 Adovo 理事長 松岡柊吾氏

慶応義塾大学法学部 1 年生。高校年生の時、NPO 法人 Adovo を設立。中高生・大学生が中心となり、同年代の視点から日本に来た若い、外国人技能実習生に日本語や日本文化を伝える活動を行っている。

キーパーソン 21 チーム静岡 勝又健介

キーパーソン 21 チーム静岡の代表。自分を知り、社会を知り、自立することに結びつく「わくわくエンジン®」のワークショップを行う。チームメンバー 8 人が中高生をサポート。

【事前研修全体プログラム】

1. オープニング
2. 自己紹介（チェックイン）
3. ミニ講座（NPO のイロハ、ボランティアの心得）
4. トークセッション（NPO 法人 Adovo 代表理事 松岡柊吾氏）
5. ワークショップ（認定 NPO キーパーソン 21）
6. クロージング

## オープニング

市民協働センター センター長から全体へ挨拶

## 自己紹介（チェックイン）

グループごとに名前、所属、NPO 体験セミナーに期待すること、今の気持ちを共有した。

## ミニ講座（NPO のイロハ、ボランティアの心得）

センタースタッフから、協働センターの紹介、NPO について、NPO 体験に参加するにあたり大切にしたいことのレクチャーがあった。

## トークセッション（NPO 法人 Adovo 松岡修吾氏）

NPO 法人 Adovo は、中高大学生から成る 115 人の団体であり、日本に来る技能実習生の支援を行っています。外国人に日本語を教えることは意外と難しいですが、ベトナム人の場合、彼らはベトナム語しか話せません。そのため、私たちは簡単な日本語で日本語を教えることに取り組んでいます。

私たちの団体のメンバーは中学生から大学生まで様々であり、ベトナムの現地で日本文化について教える活動を行っています。多くの技能実習生は日本の場所を知らずに帰国してしまうことがあるので、彼らに日本の文化を紹介するワークショップを開催しています。

団体に参加するメンバーに向けて説明会を行ったり、映画の試写会を通じて技能実習生について話したりしています。なぜ私たちはこの団体を立ち上げたのかというと、私が高校1年生の時にコロナ禍の中で、高校のカリキュラムでベトナム研修があり、技能実習生について知りました。彼らが日本の社会に馴染めず、日本語を話せない様子を見て、同世代の技能実習生に何かできることはないかと考えたのです。

私たちは若者言葉を教えることや会話力を高めるための観光や日本語教室などを通じて、彼らのサポートを行っています。このNPOは、お年玉貯金の1万円から始め、立ち上げ当初は親に反対されました。困難な点は主に資金であり、NPOは弱い組織だと思いますし、人脈もありませんでした。NPOの魅力は、少ない資金で活動を開始できるという点です。私はAO入試を受けて大学に入学しましたが、人生の大事な時期に社会活動をする事ができたことは良い経験でした。

NPOの関わりは様々ですが、NPO活動に参加したり、寄付を行ったり、団体のメンバーになって活動することができます。私たちの活動資金は寄付に頼っていますが、寄付による活動を行うことは、弱い組織だと思われることもあります。立ち上げ時に苦労した点は、興味を持ってもらうことがなかなか難しいことでした。私たちは2人で団体を立ち上げましたが、高校生に興味を持ってもらうために学校にポスターを貼りました。また、団体メンバーとのコミュニケーションや、個々のメンバーが活動に対して思いを持つようにすることも課題でした。それぞれの団体には独自の理念がありますが、NPOの活動には理念がもっていることがとても重要です。



## ワークショップ～わくわくエンジン®を見つけよう～（キーパーソン21チーム静岡）

### (1)オープニング・説明

「ゲームを楽しもう。将来やりたいことがありますか?」というテーマで行われました。このワークショップでは、ゲームを通じて参加者が楽しく将来の夢や好きなことを見つけるサポートを行いました。

サポーターが自己紹介では、名前、あだ名、そしてそれぞれの仕事を紹介されました。サポーターの中には学習塾の講師やwebデザイナー、議員、大学職員、県庁職員、放課後等デイサービス職員など、多様な職業の方々がいました。



## (2)好きなものビンゴ

みんなが好きなものを探っていくゲームを行いました。ゲームのルールを説明し、参加者は順番に好きなものを言っていきました。「こどもが好き」という言葉が出た場合、なぜこどもが好きなのかを説明し、シートの適当な場所に「子ども」と記入しました。同様に、掃除が好きな場合は、なぜ掃除が好きなのかを説明し、シートに「掃除」と記入していき、参加者は交互に枠を埋めていきました。目標は、全員が3つのビンゴになることで、参加者はじゃんけんで順番を決め、好きなものを交互に言っていきました。

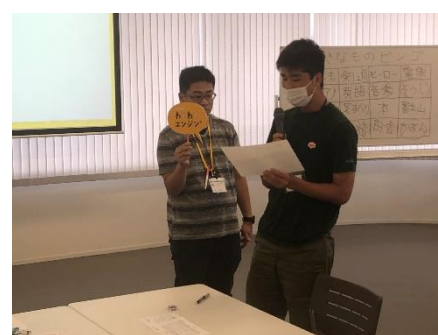
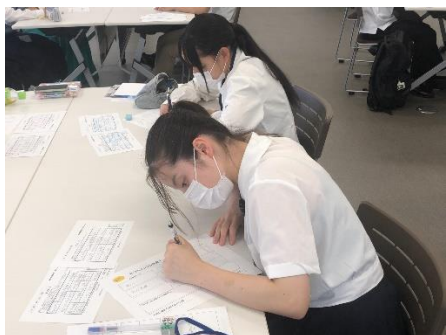
2回目のビンゴでは、参加者は「大事なこと、大事なもの」、「やってみたいこと」、「熱中したこと、夢中になったこと、楽しかったこと」、「憧れていること」というテーマでビンゴを行いました。参加者はそれぞれのテーマに沿って好きなものを言い、合計点数を競いました。



## (3)わくわくエンジン®

参加者は好きなものやことを3つ書き、その後で理由やわくわくする要素を考えました。共通する要素やピンとくる要素をメモ書きの形でまとめ、自分のわくわくエンジンを表現し、発表しました。

自分自身を知ることによりやりたいことが明確になり、主体的に行動することができることや、地域とのつながり、自己を活かすことの重要性などについて意識を高めました。



## クロージング

挨拶・アンケート記入